

## 原木シイタケ栽培作業の省力化( )

### 1 研究のねらい

原木シイタケ栽培作業の省力化( )では平地での作業について調査を行ないましたが、( )では傾斜地で調査を行ないませんので事例を報告します。

### 2 調査方法と結果

(1)調査方法：林業技術センター内の傾斜地(傾斜 27°)を利用し、従来のヨロイ伏せ(以下「従来方式」という)と、斜面に打ち込んだ支柱を用いて、高さ 57cm(斜面からの垂直高)の所で固定した鋼管(直径 50mm長さ 5m)の上に合掌伏せしたものの(以下「新方式」という)について天地返しに要する時間を比較した。

調査は、前回平地で調査した時と同じ当年植菌したホダ木 50本(平均直径 8.9cm)を用い、従来方式と新方式の間で天地返しに要する時間を調査し、ホダ木 1m<sup>3</sup> 当りに換算して時間を比較した。

作業はヨロイ伏せの習熟者 2人 1組で作業を 3回繰り返し、平均作業時間を求めた。

(2)調査結果：ホダ木 1m<sup>3</sup> 当りの平均所要時間は、新方式の場合 5分 38秒で、従来方式の 15分 13秒と比較して 63%の短縮効果があった。なお、3.3 m<sup>2</sup>当りの新方式でのホダ木収容本数は 70本で、従来方式の 70%の収容率となった。

### 3 今後の進め方

今回の調査では、傾斜地でも鋼管を使用し作業を行なうことにより、従来方式より短時間で作業できることがわかった。

今後も平地及び傾斜地での作業時間について継続調査を行なうとともに従来方式と新方式による発生量比較及び品質調査を行なう予定である。

作業時間とホダ木収容本数の比較

項目	方式	1回目	2回目	3回目	平均(比率%)
作業時間	新方式	6分 54秒	5分 17秒	4分 43秒	5分 38秒(37)
	従来方式	16分 51秒	13分 24秒	15分 25秒	15分 13秒(100)
収容本数	新方式	28本(70%)			
	従来方式	40本(100%)			

注) 作業時間はホダ木 1m<sup>3</sup> 当り所要時間

注) ホダ木収容本数は 3.3 m<sup>2</sup>当り収容本数



従来方式による天地返し



新方式による天地返し

(担当 特用林産部 主任専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL019(697)1536  
 岩手県林業技術センター FAX019(697)1410  
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>